



クルーズ客船寄港、 7年連続道内第1位

小樽市産業港湾部
主幹 池田克也 様

この客船は、約2,700人もの乗客を乗せた豪華客船ダイヤモンド・プリンセスで、入港時には「小樽クルーズ客船歓迎クラブ」の市民ボランティアの皆さんが手を振って出迎え、出港時には太鼓の打演やタヒチアンダンスで見送っています。2014年、小樽では過去最高の41回の寄港があり、市の試算では、その経済効果は約7億7千万円となりました。しかし、今年の寄港回数は、道内周遊ツアーが減少したことなどにより半減しています。

市では2012年、舞鶴港や伏木富山港など日本海側の港湾と連携して「環日本海クルーズ推進協議会」、13年には、小樽や北後志の関連団体による「小樽港クルーズ推進協議会」を設立し、クルーズ船社や旅行会社に北海道、小樽の魅力をアピールするなど、誘致活動を強化しています。

歓迎 クルーズ



時代とともに発展、北

明治13(1880)年、石狩間に鉄道が敷設され、小樽が始まりました。明治30事に着工、2年後には開まで北海道経済を支えて昭和40年代には、本州(1997)年、水深13mの大港できるようになりました一方、平成2(1990)年北海道観光の海の玄関口港し、観光振興の面でも

客船 - 小樽港



海道経済を支える小樽港

炭田の開発に伴い、手宮(小樽)～札幌
樽港は石炭の積み出し港として建設が
(1897)年には、国費により小樽築港工
港し、北海道開拓の拠点として、今日
きています。

への長距離フェリーが就航、平成9
型岸壁が整備され、大型の穀物船が入
た。

にはマリーナも供用を開始。近年は、
として国内外のクルーズ客船が多数寄
期待が膨らんでいます。

北防波堤を造った近代小樽港の父 廣井勇

北防波堤は明治30年着工し、明治41(1908)年
に完成、100年以上にわたり、日本海の荒波か
ら小樽港を守り続けています。

廣井 勇：出典「写真集 小樽築港100年のあゆみ」
北海道開発局小樽開発建設部小樽港湾事務所



工事中の北防波堤と小樽港 (明治36年)：小樽市総合博物館所蔵